

第16回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



中学生の部 優秀賞 受賞作品

『北の「縁側」、上野』

東京都

千代田区立九段中等教育学校

中学三年 渡辺 葵

北の「縁側」、上野

千代田区立九段中等教育学校 中学三年

渡辺 葵(わたなべ あおい)

上野は私の心のふるさとだ。ここに住んでいるからこそ、上野駅には特別な役割を感じている。この駅は二〇二三年に開業一四〇周年を迎えた、歴史あるターミナル駅である。石川さゆりさんの「津軽海峡・冬景色」でも広く知られるこの駅は、東京から北へ向かう列車の始発駅として、現在のＪＲにより建設された。建設以降、上野駅は、東京の戦後復興と共に大いに発展してきた。

ここで、昭和三〇年代、高度経済成長期の上野駅を紹介したい。上野駅は地方から上京する若者たちの玄関口として重要な役割を果たした。当時は春ごろになると、東北地方などから集団就職のために上京してくる、たくさんの方が見られたそう。彼らは「金の卵」と呼ばれ、もてはやされたが、その言葉とは裏腹に過酷な労働や賃金の低さなど、厳しい状況に置かれていたという。

上野駅は、北の玄関口と呼ばれることが多い。そもそも、「玄関」という言葉は、仏教語に由来する。奥深い悟りの境地、仏教の入り口という意味が含まれる。高度経済成長期の歴史的背景をふまえて考えると、奥深い入り口、といった意味でも適している。

しかし、私は上野のことをそれ以上の存在だと感じている。そこで私は上野駅を、あえて北の「縁側」と呼びたい。それは近年、東北線と東海道線がつながり、上野駅が北へ向かう列車の始発駅のイメージが薄れつつあることに関係する。

まず、北の玄関口ではなくても、上野駅周辺は、上野動物園や国立西洋美術館、アメ横など、たくさんの方の魅力に溢れている。春には桜、夏には蓮の花、と季節ごとに様々な自然が味わえる点も素晴らしい。上野動物園は日本最初の動物園であり、子供から大人まで楽しめる場所だ。国立西洋美術館は世界文化遺産に登録されており、世界の芸術に触れることができる。アメ横は戦後に闇市としての役割を担った商店街であり、今もなお活気に溢れている。コロナ禍が去った今では、外国人観光客も多く訪れている。

そして、縁側とは日本家屋独特の構造のことで、部屋と屋外との間にある通路のような場所だ。外でも中でもない曖昧な場所であり、「コミュニケーションスペース」としての役割もある。古くから団らんや憩いの場として親しまれるこの場所には、あたたかいイメージがある。上野はまさに、「縁側」だ。そして北へ向かう列車の始発駅としての大切な歴史がある。北の、縁側。この言葉が真に上野を表しているのではないだろうか。

私はここで生まれ育った。だからこそ、故郷を離れた多くの人々が、ここから新しい生活を始めてきた歴史を知ることが出来た。上野駅ホームに立つと、心が引き締まるような気がする。人々の期待や不安、そして夢が詰まった上野駅の歴史が、そう感じさせるのだろう。かつて、上京してきた若者たちが降り立った場所。それぞれが大切な人を出迎え、見送った場所。そして新たな旅が始まる場所。そんな北の「縁側」、上野を私は心から愛している。上野はただの通過駅ではなく、人々の想いが交錯する特別な場所なのだ。